



第3回 新人助産師研修 産科ショック(出血の対応)

於: 山口県看護研修会館

講師: 鳥取県立中央病院

産婦人科統括部 部長 高橋 弘幸 医師

令和2年10月10日(土)第3回新人助産師研修会を開催し、新人助産師15名が参加しました。前回同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、今回は演習も行いました。午前は「母体死亡の現状」「産科異常出血の予防」「全身管理」について講義があり、母体急変対応の習熟の必要性を認識する内容でした。昨年まで使用していた PPH(産後の過剰出血)は今年度から使用されなくなったこと、異常出血時の原因検索(4T)と止血処置についても学び、助産師として必要とされる知識と技術を学べる機会となりました。

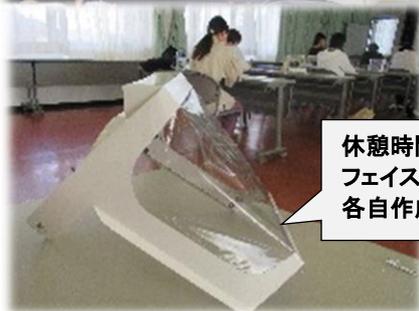


午後からは、産科異常出血のシミュレーション演習を行いました。症例の設定では、クリニックや総合病院、周産期医療センターなどがあり、それぞれの役割や設備・体制を考えながら初期対応の方法を体験しました。演習前に同じ設定の動画を見ていても、いざシミュレーションを開始すると思うように動けない・声が出せないことを実感しました。

高橋先生より「高度なことをしなくても、自分のスキルに見合った役割をこなしていくことが必要。医師に『ショックインデックス 1.5 です!』と伝えるだけでも役割を果たせる。『何かおかしい』と思った時は先輩や医師に報告すること。チームの一員として動けるように日々努力していきましょう。」とアドバイスを頂きました。本日の学びが、“いつでも”“どこでも”起こりえる産科危機的出血に対応できる助産師への成長につながることを期待しています。(山口県看護協会助産師職能委員会)



助産師役、医師役、研修医役の3名が、講師の状況説明と心電図モニター、各種測定値を元にアセスメントを行いチーム活動の体験をしています



休憩時間を利用してフェイスシールドを各自作成しました



第4回新人助産師研修: 11月28日(土)「母乳哺育支援」

